



たきかわCS通信

滝川教育委員会 教育部 教育総務課 令和2年 8月28日発行 一第 15号一

～学校支援地域本部事業紹介～

【実践例紹介】

西小学校 5年生 (地域の企業, 地域ボランティアの協力)

JAたきかわ 代表理事新組合長 山岸 穰 さん



稲の観察に行きました!



今回も、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育くめるよう「地域とともにある学校づくり」を進める仕組み、「コミュニティ・スクール」の実践例を紹介します。

7月10日(金)に、西小学校の5年生は、佐々木 貴子栄養教諭による総合的な学習の時間で、東滝川にあります山岸 穰(ゆずる)さんの圃場(ほじょう)(旧東栄小学校裏)で山岸さんやJAたきかわ職員の山口 勇気さん、村田 誠一さんのご支援・ご協力をいただきながら、稲の観察を行いました。



とてもよいお天気でした!

昨年までは、田植えの体験をさせていただきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができませんでした。しかし、稲刈りまでに「ぜひ稲の生長過程を観察したい。」という子どもたちの要望を快く引き受けてくださいました。



山岸 穰さん

観察日はとても暑い日でしたが、大変よいお天気に恵まれ、子どもたちは元気いっぱい活動することができました。

予想以上に子どもたちが喜んでくれたので、とてもよかったです。



山口 勇気さん



村田 誠一さん



佐々木 貴子先生



齊藤 強先生, 高橋 克也先生

コロナ禍で色々な行事や活動等が中止になった中、稲の観察が出来て、ホッとされたことと思います。

コロナウイルス感染症の影響で、日々、色々と配慮したり我慢したりする生活を送っている子どもたちにとって、澄んだ大空と美しい水田の風景の中での学習は、とても楽しく、リフレッシュもできたのではないのでしょうか。



稲の観察の様子



稲の生長観察中



給水口観察中



稲の生長観察中



稲と稲の間隔を測定

測ってみると約30cm
でした。



質問中



質問中



質問中



全員で挨拶



お礼の挨拶

大変お忙しい中、田んぼや稲
のことを色々と教えていただき
ありがとうございます。

すごく田んぼのことが
わかりました。農家の方
がとっても苦労して米
を作っていることが
わかりました。



5年生の男の子

バスに乗る前に急にイン
タビューしたのですが、と
っても早く答えてしてくれ
ました。どうもありがとう！

山岸さんは、子どもたちのたくさんの質問に丁寧に答えてくださいました。

《子どもたちの質問》 ～ 抜粋 ～

- ・田んぼの生き物 → カエル、どじょう、たがめ、鶯(サギ)なども来る
- ・泥で作業しにくいのでは → 今は、機械で作業することが多いので昔より楽
- ・なぜ田んぼは四角いのか → 作業効率がよいから
- ・なぜたくさん水を入れるのか → 水稻とも呼ばれているが、毎年水を入れることによって連作障害にならない
- ・水の調整は → 給水口で調整する
- ・水の量は → 10アール当たりの用水量は1000～1400キロリットル
- ・米の種類 → 480品種 滝川は13品種
- ・品種改良の仕方 → もみの中におしべとめしべがあるので、お湯に5分間つけるとめしべは残り、おしべは死ぬのでそれを培養し改良を重ねていく
- ・大変な作業 → 田植え迄の準備と毎日生育の様子を見ること
- ・日本酒の米と食べる米は違うのか → 北海道でもお酒の米が作られるようになったが、専用の米でなくても酒はできる
- ・茶碗一杯のお米は何粒位 → 約3000粒位、一株の稲 70粒×22本→二株必要

たくさんの質問、
驚きました！

子どもたちはその後、自由に見学をしたり、稲の大きさを測ったり、田んぼの生き物を観察したりするなど、のびのびと活動していました。

山岸さんをはじめとするJAたきかわ職員の皆様、コロナ禍で大変なところ、色々ご配慮いただきありがとうございました。また、西小学校の今回担当された諸先生方、たいへんお疲れさまでした！秋の稲刈りがとっても楽しみになりましたね！